

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400017		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム中野		
所在地	千葉県千葉市若葉区中野66－5		
自己評価作成日	平成26年3月20日	評価結果市町村受理日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 明るく暖かく家庭的な雰囲気を大切にしています。
- ・ 花見、花火大会などの季節行事で、外出支援も行っています。
- ・ 経済的に困難な方を低料金で受け入れている実績があり、市役所や地域の方からの相談を多くお受けしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「安心と尊厳のある生活を支援する」ことを掲げて介護支援に取り組んでいる。ホーム長は「全職員が気楽に相談できるホーム」作りに力を注いでおり職員とのチームワークは良く、定着率は極めて高い。経験豊富な職員により、「利用者を先ず大丈夫と受け止め、信頼関係を作り上げての親身な支援」が行われており、家族アンケートでも「温かみのあるホーム運営で生き生きとした表情が見られるようになった、職員も生きいきしている」と回答者全員から高い評価を得ている。困難事例も積極的に受け入れており、若葉区やあんしんケアセンターとは密接な協力関係が構築されている。地域住民との日常の付き合い、ホーム行事への協力、運営推進会議の幅広い参加者に見られるように、地域に密着した明るいホーム運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホームの理念は「認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して安心と尊厳のある生活を支援する」である。理念は事業所の目につくところに掲示している。	全職員は事務室に掲示されてる理念を確認して、日常の介護に取り組んでいる。利用者に対し、いつでも「大丈夫ですよ・安心して」と声掛けして思いを先ず受け止めてから支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等に参加し、地元の方と交流しています。散歩の時なども挨拶を交わし、日常的な交流がある。	自治会に加入し地域行事へ参加し、親しかった住民の自宅を訪問したり、野菜をいつも頂く農家、避難訓練への住民の参加等協力関係が出来ている。近所住まいの職員が多く、住民と親しいので運営面で助かっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の自治会と連絡をとりあい、生活が困難になってきた方の情報を共有して必要な援助が出来るように心掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、地域住民や地元関係者とのつながりが広がり、深まった。事業所の理解者や応援者が増えている。	区福祉支援課、社協、民生委員、自治会長、あんしんケアセンター、家族、住民と幅広い参加者で年間6回開催した。運営状況・災害時対策を中心に検討し、ホーム運営に関する理解と協力度が高まっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員と連絡をとり、協力関係を築くよう心掛けている。	あんしんケアセンターには、毎回運営推進会議に参加願ひ理解を得ている。。区からの困難事例者受け入れ要請にも協力し感謝されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」等をテキストに事業所内で勉強している。	身体拘束はせず、見守りで対応している。職員に市主催の研修を受講させ、ホーム会議の際に受講者が講師役となり職員に伝達講習を行い、理解を徹底させている。玄関施錠は夜間のみである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待を考える」等をテキストに事業所内で勉強会を開いている。日頃から虐待事件を話題にして防止に努力している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉市権利擁護センターと連携し、必要な方に活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明に充分時間をかけるようにしている。また質問がないかをこちらから伺うようにしている。安心して話が出来るとような雰囲気を作ることを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との人間関係を大切にし、何でも話しやすい雰囲気を作ることを心掛けている。定期的に利用者・家族の要望を聞く様になっている。	ホームだよりやスナップ写真を毎月家族に送り、また随時電話でホームの運営や本人の状態を理解頂くようにしている。家族来訪時には何でも話し合い、課題や対応方法を全職員で共有している。	「家族に対する報告や話し合い」関連がアンケート結果では昨年に比べてやや低下傾向にある。対応方法についてのご検討をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日頃から運営に関しての話をするようにして、良い意見を取り入れている。	職員とは気楽に相談出来る関係づくりに努め、大変コミュニケーションの良いホームである。毎月開催のカンファレンスの時にも要望や提案を聞き、全職員で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会への参加を促し、やりがいや向上心を持って働ける努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に出るよう促している。また事業所内での勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「認知症の会」に参加し、理解を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話によく耳を傾け、本人の求めている事を理解するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、ご家族がどのような事を求めているかを理解出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族からよく話を聞き、グループホームとして「何がご本人の為になるか」をよく考えた上で支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力にあった役割をして頂いて、共に過ごし支え合う関係を築くように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連携を取りながら、ご本人を共に支えていく関係が作れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りご家族や友人、職場等の交流が保てるように努めている。	地元野呂の花火大会にお握りや飲み物を持って出かけたり、旧知の友人の訪いや近所のお店に行くなどしている。また芋掘りや落花生掘りなどの楽しみも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係をよく見守り、お互いに気持ち良く過ごせるように必要な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族型の方に、運営委員会に出席して頂き、交流をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本心を安心して話して頂けるように、信頼関係を大切にに関わりあっている。	安心して過ごして頂くことが一番との思いで「気持ちが安らぐ」支援に努めている。「～してはダメ」「ちょっと待って」は禁句としている。入居間もない利用者の頻回の帰宅願望の訴えにも、都度手を空け笑顔で本人に向き合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけではなく、ご家族等からもお話を伺い、これまでの生活や馴染みの暮らし方を把握できるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活の様子や体調変化の有無などを各介護職員が把握し、情報共有出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでご本人の状態を確認し、現状に合ったケアプランかを検討している。必要に応じて、ご本人・関係者の意見等を取り入れたプランに変更している。	家族からは来所時や手紙で希望等を伺っている。日々の業務記録や職員からの気付きや意見等と介護支援専門員が本人から要望等を聴き、それらを基に介護計画を作成している。3ヶ月毎および都度の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録しており、情報共有の為に申し送りを行っている。必要に応じて計画変更につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズがあった際は出来るだけ柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の敬老会に出席したり、市の福祉バスを利用したバス旅行を実施したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である、あおばクリニックの受診支援をしている。	ホームのかかりつけ医受診時は職員が同行しており、受診後結果を家族に伝えている。入居前からの担当医受診には家族の同行を基本としている。また月2回の歯科医の訪問があり口腔ケアや治療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日血圧測定を実施しており、顔色やお体の動きなどの状態観察をして、体調変化の把握が出来るようにしている。必要時には診察を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	徳洲会病院のケースワーカーとの関係を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族や関係者とも連絡を密にとっている。	入居時にホームの方針を話している。重度化した時早い段階から本人・家族と話し合い、特段の医療行為が必要になるぎりぎりまでホームで過ごして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを使い、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と協力して実施している。消防訓練は定期的に行っている。	消防署指導の避難訓練を地域の方の参加も得て実施した。夜間想定自主訓練も頻回に行い、夜勤者1名での利用者の避難方法の体得に努めている。近々AEDの設置を予定している。	運営推進会議でも関心の高い事項であり、避難方法についての継続的な検討と訓練をお願いしたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、ご本人の立場に 立った言葉かけが出来るように心掛けている。	名前は基本的には苗字で、友達言葉は使わ ない、人生の先輩として尊重し、その方の思 いを聞き流すのではなく、きちんと受け止めた 対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	買い物や外出等、希望を聞き、自己決定で きるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活スケジュールは決まっている が、無理強いせず、ご本人のリズムで生活 して頂くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	ご本人の好みを聞きながら、その人らしい 装いが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	季節の食材を使った手作りの食事を提供し ている。動ける利用者の方には、片づけな どを一緒に行って頂いている。	四季の食材をふんだんに使ったまさに家庭 の味を提供している。独居の方も多く、入居 当初より栄養改善が顕著で顔色も良くなり、 介護度の軽減にも繋がっている。「いただき ます」のあいさつの後、皆で揃って食事をし ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事・水分摂取量の観察を行い、必要に応 じて摂取の促しや補色の提供を行ってい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	ご本人の能力に合わせて、歯磨き・口腔洗 浄剤を用いたうがい薬を食後に行ってい る。治療が必要な方には訪問歯科診療を受 けて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせ、見守り・声掛け・一部介助等、排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用しトイレでの排泄を支援している。夜間おむつでも日中はリハパン+パッドにするなどして、排泄の自立に向けた支援と清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、散歩などの運動の機会を作っている。排便確認を行い、排便状態の把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂好きな人にはゆっくり入って頂いている。	週2～3回午前中を主体とした入浴支援をしている。本人の希望で午後の方やシャワー浴を希望の方もいる。状態により2人対応の方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思で気持ち良く過ごされるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の薬は医師に状態を相談してから、処方して頂くように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべくご本人の希望に沿うように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のご希望に沿って戸外へ出かけたリ、スタッフと一緒にいちご狩りや外食、花火大会などに出かけるようにしている。	毎日の散歩で近所の方と顔馴染みになりご自宅に寄らせてもらったりしている。また外食やいちご狩り・花火大会などに出かけている。市の福祉バスを利用して動物園に行ったり、次回は温泉に行く予定があり、皆で楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	宅配牛乳など、ご本人の希望に沿うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、電話のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように、明るさや温度の調整をしている。また 季節を感じて頂けるような飾り付けに心掛けている。	居間は行事の写真や緊急時の対応方法などが貼られ、賑やかな雰囲気である。植物や土いじりが好きな方は、花壇の手入れに精を出し草花を育てている。少量の酒や煙草を禁止することなく、職員が付き添い本人と約束した分量を居室や屋外で楽しんでもらい、精神の安定に繋げている。	家庭的な雰囲気の中で、本人本位の生活支援の実践に努め、精神の安定に繋げていることは「目から鱗」である。引き続き大切にしていきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々に応じて利用者が気分よく過ごせるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りご本人の希望に沿って居室を整え、部屋の換気、温度も考慮した支援をしている。	馴染みの品々を持ち込み、好みに配置している。絵を描くことが好きな方が、誕生日の方にプレゼントした似顔絵が居室に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、能力を活かした生活が出来るように支援している。		